

ひがしの子

令和3年9月1日
岐阜市立岐阜東幼稚園
園長 藤井 佐由美



42日間の長い夏休みが終わり、2学期が始まりました。皆さん、いかがお過ごしでしたか。

令和2年に続き、今年の夏休みもステイホームとなり、いつものように家族で出かけたり、親戚の人と会ったりすることが難しかったことと思います。こんな時だからこそ、人とのつながりというものの大切さを改めて考えさせられましたね。

そんな中、『東京2020オリンピック』が開催され、多くのアスリートからたくさんのパワーをもら

いました。個人的には、サッカーが一番気になって観ていました。「オーバーエイジ枠」で出場していた選手に向けた後輩の熱い思いに胸を打たれました。同時に自分自身を振り返る機会にもなりました。あんな風に後輩から尊敬されるには、ものすごい努力が必要だと感じました。

その姿に励まされて、様々な文献を読んでいて改めて考えさせられたことがあるので、少し書かせていただきます。大阪大谷大学の教授：井上美智子氏の論説からの抜粋です。

幼児期には、身近な自然と触れ合う体験を積み重ねる中で、不思議を感じ、感動し、好奇心と探求心をもち、また、生物に親しむことを通して愛着をもち、大切にすることを育くむことが大切である。それは、身近な自然を自ら経験する、すなわち、直接体験することである。

一方、現代社会の日常生活では、直接体験の機会が減り、その価値も薄れている。昔は身体を使ってしていた多くのことが機械化、自動化され、身体が環境から受ける刺激も減ってきた。(中略)

現在の日本は、安全で便利な生活を享受できる一方、自然離れが激しく、多様な情報機器があふれ、ヴァーチャルな経験が容易になり、子供の体験活動が減少している。(中略)

人間は、ビワやノジグクなどの香り、つまり、刺激を、化学物質に対する嗅覚器や味覚器などの感覚器^{注1}で受容し、その情報を脳で認識する。その認識は、多様な種類・多様な物質質量を感知する経験がないと育たない。(中略)

注1：感覚器には他に、光に対する視覚器、音に対する聴覚器、化学物質に対する温度や機械刺激に対する触覚器などがある。

教育において直接体験が必要とされる理由は、発達に不可欠であるからであろう。人間も動物の一種であり、感覚器官や運動器官、それらを統合する脳を使って生きる。そのため、誕生後は生物としての発達の道筋を経る必要がある。他の生物同様、環境と関わること、すなわち、経験をとおして発達するように生まれついている。だから、身体も心もあらゆる側面が発達する幼児期に多様な直接体験が必要とされる。しかも、経験の繰り返し、経験量も大切なのである。

井上先生は、更に「リアルな自然」（園庭や公園のように人間の管理下にはない自然）での体験が必要と述べています。

（中略）

いくら技術が発展しても、生存の基盤である生態系が崩壊すれば、人間も生物である以上、生存することはできず、そうなれば技術で人類を救うこともできない。どうすれば、持続可能な社会に迎えるのか、技術の在り方も含め社会全体で真剣に考えていかねばならない。（中略）

本来の自然の姿を知り、人間はどこに位置し、どのように自然と向き合っていかなければならないかを他の生命への感情を伴う体験を通して学ぶ必要がある。

まだまだ、続くので、全てはご紹介できないのですが、大きくふたつの意味があると思います。

- ① 幼児期には、直接体験の中で、様々な感覚器を通して、情報（匂い、味、見える色、形、変化、立体的な奥行き、相互の関係性、音、大きさ、音の重なり、触った感じなど）を脳に伝え、認識する経験を繰り返すことが大切
- ② 人間の管理下にある自然だけではなく、リアルな自然を体験し、知ることが大切
（人間の手でなんでもできるという感覚を簡単に与えるのではなく、自然や生物の立場に立った見方ができる感覚をもたせることが必要。）

1学期の終わりにも少しふれましたが、幼稚園では、5歳児を中心に少しずつ『SDGs』^{注2} についての話をしたり、ポスターを貼ったり、夏祭りのロゴ『MISSION IN SPACE』を『SDGs』からとったりしてきました。

東京2020オリンピックが開催され、国旗や様々な人種をテレビで観ることで世界というものに興味を示したお子さんも多いのではないかと思います。きっかけは何でもよいと思います。

もしよければ、ご家庭でも「これからの社会を生きるうえで大切なこと」について、話す機会をもってみてください。幼児も幼い市民です。幼い市民の意見を聞いてみてくださいね。

注2：『Sustainable Development Goals』⇒持続可能な開発目標とは、2030年までに達成すべき17の目標（世界をかえるための目標）のことです。2015年9月に国連で開かれたサミットで決められた、国際社会共通の目標です。

岐阜東幼稚園では、前述したことにも注目し、日々自分たちの保育を振り返り、話し合い、研究することにより、保育の質が向上するように努めています。そんな中、輝く子供たちの姿を、広く市民に知らせていきたいと考えています。

それを踏まえて、YouTube 配信できるように、岐阜東幼稚園紹介のプレゼンを作ってみました。今後は、SNSなどでも、岐阜東幼稚園の子供たちの素晴らしさを知ってもらうために、「遊びの中の学び」を発信できるよう準備しています。

掲載については、保護者の方の同意が必要となります。改めて、Instagram、Twitter、Facebook、LINE、YouTube などのSNS及び、新聞紙、テレビ、ケーブルテレビなどのメディアなどの発信を含めた同意書を、本日、配布させていただきました。岐阜東幼稚園の教育を広く知っていただき、多くの方のご協力・ご賛同を得ながら、幼児教育の質の向上を目指したいと考えています。是非、この主旨をご理解いただき、掲載に同意をいただけると幸いです。

【9月の保育について】

【3歳児】

○園生活のリズムを取り戻し、身の回りのことを自分でしようとする。

○先生や友達と一緒に戸外で伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。



家で過ごすことが多かった分、家族から愛情をたっぷりを受けて過ごした夏休みだったのではないかと思います。幼稚園再開が楽しみな反面、保護者との離れ際に、泣いてしまう子もいるかと思っています。1学期の経験から、徐々に遊びや友だちを思い出し、園生活のリズムをとり戻してしていけると思いますので、ゆっくりと受け止め、安心感をもたせながら遊びへと動き出せるように援助していきます。保護者と連携しながら関わっていききたいと思いま

す。

また、身の回りのことを自分でできる子が増えています。大きくなることの喜びを教師が受け止め、認めていくことで、定着できるよう援助していきます。

3歳児は、身体の発達が著しく、投げたり、走ったり、跳んだり、上ったりなど、楽しみながら新しい運動にも挑戦しようとする姿が見られるようになります。親子ふれあいフェスティバルを通して、身体を動かすことの心地よさに気づき、先生や友達と、様々な運動遊びを繰り返し行えるように準備していきます。新しいことができるようになることで、大きくなった喜びを感じる姿を共感していきます。

【4歳児】

○いろいろな運動遊びを通して、体を動かす心地よさを味わう。

○先生や友だちと一緒に考えたり、試したりしながら遊ぶ。

夏休みが終わり、久しぶりに出会う友だちにとのおしゃべりや遊びを楽しむ姿が見られます。

体を動かす遊びも活発になってくる時期です。特に3歳とは異なり、少しルールのある遊びを好んだり、ルールを守って遊ぼうとしたり、社会性も身につく時期でもあります。そんな遊びに誘いながら、クラスの友達と一緒に遊ぶことが楽しいと思えるようにしたいと思います。



親子ふれあいフェスティバルに向けての取り組みでは、かけっこ、玉入れ、障害物走、綱引きなど様々な動きや連続した動きができるような運動遊びを経験できるようにしていきます。一人一人の能力は異なりますが、自分なりに取り組む過程を認められることで、次の意欲に

つながっていきます。体を動かすことに苦手意識のある子供もやってみたいと思えるような環境を考えていきたいと思います。

また、友だちと遊びのイメージの違いから、ぶつかり合いも多くなります。1学期には、その場を離れてしまったり、遊びをやめてしまったりしていた姿も、思いや考えを伝え合う経験を繰り返すうちに、伝えることで解決できる経験を積んでいきたいと思います。また、自分の思いを伝えるには言葉が必要です。様々な遊びや生活の中で、言葉を意識できるような働きかけも行っていきます。

【5歳児】

○いろいろな遊びに自ら挑戦し、思い切り体を動かす心地よさを味わう。

○友だちと考えを出し合いながら、遊びを進めていく。

久しぶりに会う友だちと誘い合って遊びを始めようとする姿が見られます。自分の思い（主



張)を出せるようになる一方で、相手の重みを受け入れることができずもめることもあります。周りの子供も、一緒に考えようとする姿が育ちつつあります。遊びのアイデアや方法など、自分たちで意見を出し合う姿を見守りながら、教師も一緒になって子供たちと遊びを創り出せるような関わりをしていきます。

2学期は、親子ふれあいフェスティバルがあります。どんなやり方をするのか、ルールはどうする

のか、そのために何が必要なのかなど、子供同士考えを出し合う機会を大切にしていきたいと思います。1学期の経験が生かされることと思います。

「できる⇔できない」といった目に見える力ばかりではなく、それに向かっていく力（学びに向かう力）を育くみたいと思います。最後まで頑張る、一度崩れても立ち直る、友達を思いやる、協力するなど、個々の持ち味を生かし合いながら取り組めるように、一つ一つのプロセスを大切にしていきます。

